

# 第132回 東北大学 金属材料研究所 講演会

2016年11月24日(木) 25日(金)  
金属材料研究所2号館講堂

事前申し込み不要、聴講無料

実行委員 今野豊彦、大野裕

11月24日(木)

13:20~13:30

所長挨拶

所長 高梨弘毅

特別講演



13:30~14:30

「材料科学分野を考えるー東北大金研への期待を込めてー」

東京大学 名誉教授・高知工科大学 名誉教授

佐久間 健人

東北大学は、材料科学研究の拠点として広く認知されている。しかし、大学間の競争は世界的に厳しさを増しており、材料科学分野も例外ではない。このような現状に触れたうえで、今後の大学および材料科学分野の在り方について私見を述べさせていただく。また、自身のセラミックス研究の一端を紹介する。

**profile** 1970年東北大学大学院工学研究科博士課程修了、同年東北大学工学部助手、1974年同助教授、1981-82年ケンブリッジ大学客員研究員を経て1986年東京大学工学部教授。2004年退官、同年(独)大学評価・学位授与機構教授、2005年高知工科大学副学長、2008年同学長、2015年任期満了退職。2000年通商産業大臣表彰、2008年日本金属学会賞、2012年本多記念賞、藍綬褒章など受賞多数。



14:40~15:40

「ちりも積もれば山となる。  
鋼構造物を壊す金属疲労のマイクロ損傷」

JFEスチール株式会社スチール研究所 主任研究員 田川 哲哉

橋梁や発電設備などが突然壊れるとは誰も思っていません。当然だと思われるかもしれませんが、既存構造物の経年損傷、特に疲労損傷の実態は看過できないものもあります。疲労破壊は古くから認識されている現象ですが、本講では大型構造物を貫通する疲労き裂にまで成長する鉄鋼材料の疲労初期損傷を紹介します。

**profile** 名古屋大学、大阪大学で通算26年間、大学教員として教育・研究に従事。専門は鉄鋼材料の延性破壊、脆性破壊、疲労破壊の現象論、破壊力学に基づくそれらの評価。溶接を中心とした技術者、技能者の育成、ISO規格立案など、実産業に近い社会活動。2015年にJFEスチールに入社。教育・研究の対象を現場技術者・実製品に移し、現在に至る。

15:50~17:30

ポスターセッション

18:00~19:30

ポスター賞表彰式

11月25日(金)

一般講演

午前部

10:00~10:50

「超伝導材料技術と強磁場マグネット開発の展望  
ー金研強磁場センターの可能性ー」

教授 淡路 智

10:50~11:20

「機能性ホイスラー合金の磁気特性と電子状態」

准教授 梅津 理恵

11:20~11:50

「X線共鳴磁気散乱法 ー磁性電子状態の理解を目指すー」

准教授 奥部 真樹

午後部

13:20~13:50

「ナトリウムを用いた材料作製プロセスの開発」

准教授 森戸 春彦

13:50~14:40

「高強度鋼の水素脆化挙動とその評価」

教授 秋山 英二

14:40~15:30

「環境浄化ならびに骨伝導性に優れたTiO<sub>2</sub>の研究」

教授 正橋 直哉

15:30~15:40

閉会の挨拶

実行委員長 今野 豊彦